

## はじめに

近年のわが国の道路を取り巻く環境は、依然として多発する交通事故、少子・高齢社会、投資余力の減退などの問題に直面し、さらには、道路利用者のニーズの変化・多様化等が見られる状況にあります。

交通事故においては、近年、死亡事故は大きく減少し、平成18年の交通事故による死者数は6,352人であり、昭和30年以降50年振りに6千人台前半となりました。また、死傷事故は、平成17年以降2年連続で減少し、平成18年の交通事故による死傷者数は110万5千人であり、平成16年の約119万人から約8万5千人減少しました。しかしながら、未だに交通事故による死者数が6千人を超えていることや、交通事故件数が高い状態で推移しており、今や事故そのものを減少させることが求められています。

これらの現状から、平成18年3月に策定された、第8次交通安全基本計画では、道路交通環境の整備、交通安全思想の普及徹底、安全運転の確保、車両の安全性の確保、道路交通秩序の維持、研究開発及び調査研究の充実等が計画に盛り込まれ、さらなる道路交通事故の削減が期待されています。特に、道路交通環境の整備においては、その具体的方策として通学路等の歩道整備の推進、安心歩行エリアの整備、生活道路事故抑止対策マニュアルの活用、くらしの道ゾーンの形成、優先度明示方式による交通事故対策、事故危険箇所対策の推進、高度道路交通システム（ITS）の活用が挙げられています。本研究室においても、これらの方策について具体的な手法等を調査研究し、本省部局等とも連携して施策への反映に向け検討を進めています。

本研究成果資料集は、道路空間高度化研究室が平成18年度に行った研究の成果、国内外の関係学協会による講演会や雑誌等で発表した研究論文を中心にまとめたものです。本報告書が関係機関・関係者の業務推進において有益に活用いただければ幸甚です。

道路空間高度化研究室長  
金子 正洋